

長崎県

定数：5名

立候補者数：5名



氏名 浦川 純二

都道府県士会 長崎県

年齢 56

勤務先名称 長崎県島原病院



氏名 山下 潤一郎

都道府県士会 長崎県

年齢 60

勤務先名称 長崎記念病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

<役員歴>

2012～ 長崎県理学療法士協会 理事

2014～ 同協会 教育学術局長

<立候補の趣旨>

現在、県協会において教育学術局長を拝命し、会長以下一丸となって会員の学術活動が円滑に行われるよう携わってきました。

県の学術活動の課題として、都市部と過疎地域、島嶼部など特性が異なる地域が混在していることが挙げられます。コロナ禍で研修のWEB化が進んだ結果、講義形式による知識を得る機会は均等になってきました。しかし、対面による技術研修などは地域差よりも年代間や世代間での格差が広がりつつあり、組織率や価値観の多様性などへの課題と併せて卒後教育の方向性や学術活動のあり方を考えなければならない大切な時期にきています。

代議員となった際には、日本協会の生涯学習システムの在り方や方向性など、協会員がその利益を享受できるよう十分にお伝えすることと共に、会員一人ひとりの意見を反映させ、より自己研鑽を積みやすく、生涯にわたり学習を続ける意欲を持ち続けることができるシステムとなるよう協会に提案し働きかけていきたいと考えています。

私たち理学療法士が自己研鑽を積み、学習・研究活動を続け成長していくことこそが地域住民の健康と福祉に貢献し、社会の中での存在意義と価値を発揮することにつながると思います。微力ながら皆様のお役に立てるよう努力する所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

協会役員歴16年 士会役員歴23年

現在士会において、副会長を拝命しており、会長の下、会員の活動が円滑に行われる様に補佐し運営に携わっています。副会長前は、診療・介護報酬、士会員の雇用況等身分制度に関わることなどの担当理事として活動を行ってまいりました。副会長として全ての部局に携わることになり、会の運営方向性、問題点などを感じる事ができ、今後様々な事象を解決し発展させていくためには、士会だけではなく、協会との関係性をうまく保ちながら運営していく事が必要と感じています。今後我々がおかれる立場は様々な変化が訪れています。今回の同時改定では急性期での365日のリハの実施や更なる医療介護の連携構築が求められています。我々理学療法士に対する期待は大きくなっているのではないかと感じています。今後も自施設だけでなく、地域（自施設の医療・介護圏）を活動の場として、地域包括支援センターや地域住民、他関連職種等と連携し地域ケ包括ケアの深化に向けて積極的な参画が求められてくるかと思えます。そのような中で我々が他職種や地域住民と連携していくためには臨床的な面だけではなく社会人としてのモラルも問われてくるわけであり、社会性を持った理学療法士を育てていく必要があると思われま。急速な会員増により卒前卒後の教育がすべての面において追いついていないのは事実であり質の向上がさらに求められるところでもあります。理学療法士の卒後の養成については、新しい生涯学習のもと卒後教育が行われていますが、まだ様々な問題を抱えているかと思えます。臨床実習を受けるにあたっては養成講座を行い質的な担保を図ってはおりますが終了後のブラッシュアップ等も必要となっております。理学療法士の養成等についての教育システムの中はまだまだ問題が山積しているのも事実であり協会との関係性を強固にし意見を具申できる必要があると考えています。様々な問題がある中、臨床で働く一会員として多くの臨床で働く方々の地位・身分を保障していくためにも、会員諸氏の意見を積極的に取り入れ協会に働きかけていきたいと考え、士会と協会の橋渡しの役割を果たし意見を具申するためにも長崎県士会の代表として代議員に立候補いたします。



氏名 大山 盛樹

都道府県士会 長崎県

年齢 60

勤務先名称 柿添病院附属中野診療所



氏名 井手 伸二

都道府県士会 長崎県

年齢 62

勤務先名称 長崎リハビリテーション病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【日本理学療法士協会】
 ・2002年度～現在：代議員
 【長崎県理学療法士協会】
 ・1999年度～現在：理事 ・2018年度～現在：代表理事（会長）

現在、全国的に会員数の伸び悩みどころか、組織率が減じている傾向がみられます。それも次世代、次々世代と言われる30代から40代に見られるのは私たち理学療法士の将来を揺るがす大問題と捉えています。長崎県士会においても知恵を絞り、日本理学療法士協会と共働して策を講じるものの、なかなか功を奏することが出来ない状況にあります。労働量の増多にみあうと思えない賃金の横ばい感、就業や労働スタイルの変化・多様化などは会員の皆様の生活環境を窮屈にしている最たるものとうかがえます。休会する会員の皆様も多く、休会から退会に至らないことを切に祈るばかりです。

この組織率の低減の原因、そして課題の根源には学術・技術の実績の社会的な有益性の不鮮明さがあるようにも思えます。新たな生涯学習システムに代わり、2年が経過しました。前・後期研修から登録理学療法士、認定・専門理学療法士、そして更新といった建て付けは良い形であると思いますが、運用やポイント取得については分かりづらかったり、取得出来なかつたりして困惑し、興味を失いつつある会員の皆様も少なくはないように思えます。また、学術・技術の質の担保を積み重ねても、先に見える診療・介護報酬上のインセンティブはおろか、給与や昇格等にも明らかな利益に通じない状況にあることは会員たる意欲の維持も高揚も望めないものと言っても過言ではないと思います。

これまでの長崎県士会役員ならびに代議員の経験を糧に、長崎県士会会員を有益に導けるよう、日本理学療法士協会の琢磨を後押しし、さらには支援して行きたいと思えます。そして、日本理学療法士協会のビジョンを可能な限り「見える化」して会員の皆様に伝え、長崎県士会の事業運営に展開出来るようにするとともに、都道府県の意見を日本理学療法士協会に反映させ得る代議員でありたいと思えます。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

これまでの理学療法士の経験の中で、私の考える「理学療法士像」をお伝えし、その為の仕組みづくり、組織作りにつなげていきたいと思えます。また他職種との協働にもベクトルを向けたいと考えています。

○探求心のある理学療法士
 临床上、「なぜこうなるの？」を常に考え、問題を解決していく姿勢と行動が必要だと思えます。考察力を高め、もっと理学療法の楽しさをアピールしていくことが大切です。

○地域から求められる理学療法士
 理学療法の効果、成果のアウトカムは実際の生活の中にあると思えます。また、介護予防など地域で理学療法も多く実践されています。地域での経験、研鑽を積むこととその仕組みづくりが必要と感じます。

○後輩を育成する理学療法士
 卒後教育の在り方やしっかり現場で行動できるような落とし込み（仕組み）が必要です。

○他専門職・他団体と一緒に仕事ができる理学療法士
 理学療法を病院内、あるいは地域で展開するには多職種との協働が重要です。多職種と一緒に学びが必要だと考えます。



氏名 小無田 彰仁

都道府県士会 長崎県

年齢 58

勤務先名称 和仁会病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

私たち理学療法士を取り巻く社会的環境は近年いろんな意味で大きな変化を遂げた。医療の高度化にともない、臨床現場においては不確実・複雑な事象の解決が求められ、幅広い知識とともに高度なスキルが求められることとなった。様々なライフステージにおける多様な社会ニーズに対応するために、私たち理学療法士は自己研鑽に努めなければならず、臨床での研究活動や科学を探究することは、理学療法の発展につながり、引いては私たちの仕事（職域）を守ることに繋がるものと考えられる。また、地域包括ケア、介護予防、健康増進の分野では、リハ専門職の地域への積極的な参入が叫ばれ、「地域で活躍できる理学療法士」の人材育成と環境整備が急務とされている。次世代を担う会員一人ひとりが専門性を活かし、地域や社会で活躍できるよう土台作りが必要で、その実現に向けて日本理学療法士協会と都道府県理学療法士協会が課題を共有し、ともに取り組むことが重要であろうと考える。

平成20年4月～平成26年3月 (社)長崎県理学療法士会 理事
平成26年4月～現在 (公社)長崎県理学療法士協会 理事 事務局長

平成30年6月～現在 (公社)日本理学療法士協会 代議員
令和3年4月～ (公社)日本理学療法士協会 表彰委員会委員